

なきごえ



1981

6

大阪市
天王寺動物園協会



立松 光 好

ある出版社より、キジの分類と飼育を出すことになり、国内の動物園と繁殖家を廻り、色々な種類のキジを撮らせて頂きました。その中でも特に、ジュケイのディスプレイは素晴らしいものでした。雄は雌を確認すると、体を低くして、頭を上下に振り嘴を開き低い声を発しながら、美しい肉ダレを拡張し、最高潮に達すると立ち上り雌の方へ、交尾へと向かって行くのですが、それをファインダーを通して見ているものすごい迫力があります。本をより完全なものにするためには、国内では飼われていない様なものまで撮らなければと思ひ、それにはキジ類の飼育に関しては実績のある欧米に行かなければと、鉄道網が発達して便利なヨーロッパへ行くことにしました。少くとも野生のものを追うよりは費用も安く確実。1979年4月20日南廻りでロンドンへ向かいました。イギリスには、Pheasant Trust がノーフォークのWildlife Park内にあります。ここはCabot ジュケイの繁殖で一部に有名です。時期が時期なので、そのディスプレイが撮れるのではないかと期待して行つたのですが、何故か全部処分され残っていないとのこと、日本から、はるばる期待して来たのに、そこで、現在飼育している人を知っていますかと聞くと、ランカシャーと西独の人が、持っているとのことでした。その後、園内を見せて頂きましたが、手作りの動物園といった感を受けました。

ヨーロッパの動物を主体に集めています。オオヤマネコ、オオカミ等が広い所に飼われ、放し飼いのカオジロガン、ハイイロガンが、芝生の中で営巣していて、近づき過ぎて追いかけられたりしました。

帰りにDelacourの「Pheasant of the World」を買いたいのだがと聞くと、ペット新聞を持って来て、通信販売をしている小鳥問屋を教えてくださいました。丁度、予定していたスリムブリッチのWild Waterfowl Trustの近くでしたので、直接行くことにし

ました。それにしてもこのWild Waterfowl Trustは素晴らしいものでした、オオハクチョウ、ハクガン、カオジロガン、ハイイロガンの渡来地に作られた様で、野生のオオハクチョウは見られませんでした。他の三種は、飛び廻っていました。その他に世界のガンカモ類の大部分の種がコレクションされ、繁殖研究が行われています。特にここで増殖されたハイイロガンが、現地へ再び戻されたことは有名です。小中学生の集団が、ノート片手に勉強に来ていました。これは他の動物園でも、良く見た光景です。日本では、単にレクリエーションの場としか見ていないようですが。展示形態は我々写真を撮る者にとっても大変撮り易くできており、日本にもこのような施設があればと思うのですが、無理でしょうか。

小鳥問屋では本を10冊程買い郵送を依頼し、ついでにロンドン近郊のキジの繁殖家2名を教えてくださいました。その内の一人がWorld Pheasant Association(WPA)の飼育繁殖研究委員をされているHowman夫妻でした。ロンドン郊外のテムズ川の下流近くの静かなところに住まわれている夫妻は、キジの生態調査にエベレストの近くまで行ってこれたとのこと、その時に撮られた野生のニジキジ、ベニキジのスライドを見せて頂きました。また驚いたことに、以前ハイイロジュケイを飼っておられたとのこと、今は剥製となった鳥と、生きていた時の写真とあわせて見せて頂きましたが、本当に素晴らしい鳥だと思いました。鳥は剥製では、生きていた時の半分も美しさを表せませんし死んだものはやはり死んだものでしかありません。話は少々、横へそれますが、研究・教材として以外は、剥製を家の装飾とすることは趣味の良いものではありません。Howman 夫妻宅で2日間に渡って撮影をさせていただきました、その禽舎は日本ではまず見られぬ程、芝生や樹木を植込んであって素晴らしいものでした。作りは木造で決してそんなにデラックスなものではありませんが、日本で目にする、鳥のイレモノ的な禽舎ではありませんでした。おかげで、撮影は順調に進みましたし、又、コクジャクのディスプレイを撮るコツも教えてくださいました。

(動物写真家)

なきごえ6月号もくじ

動物と私	2
“アカカンガルーの赤ちゃん、お目見え”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
フタコブラクダの人工哺育記録	6・7
北米通信員だより ⑤	8・9
サマースクール開講のお知らせ	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“ビントロング”

主に東南アジアの森林に生息する夜行性のジャコウネコの仲間、ずんぐりむっくりの体にもかかわらずかわいい顔付きの動物で尾を器用に使います。

(写真：中川 哲 男)



“アカカンガルーの赤ちゃん、お目見え”

今年の1月頃から母親の袋の中に入っているのが確認されていたアカカンガルーの赤ちゃんは、4月の初め頃から袋の外にも時々出るようになりました。

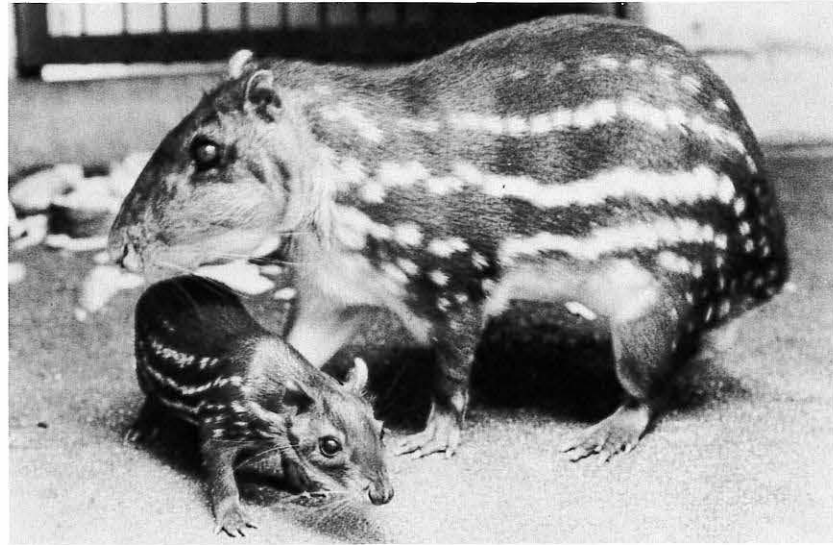
最近ではお乳を飲む時に袋の中に顔をつっこむぐらいで、ほとんど袋の外で生活しています。

(撮影：葎谷 文彦)

動物園グラフ

“繁殖賞に輝く動物たちⅡ”

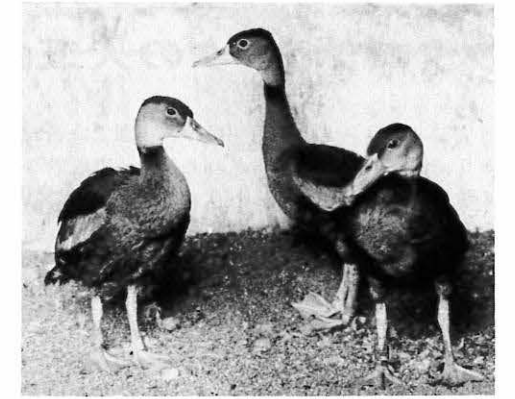
繁殖賞というのは日本で初めて繁殖し、かつ6ヶ月以上成育したものに對し日本動物園水族館協会から贈られる大変名誉ある賞です。当園では現在24個（申請中も含む）の賞を持っていますが、これは全国67園中6位です。（“Ⅰ”は昭和51年12月号です）



① パカ 昭和55年 7月25日繁殖（申請中）



② ジャングルキャット 昭和53年 4月19日繁殖



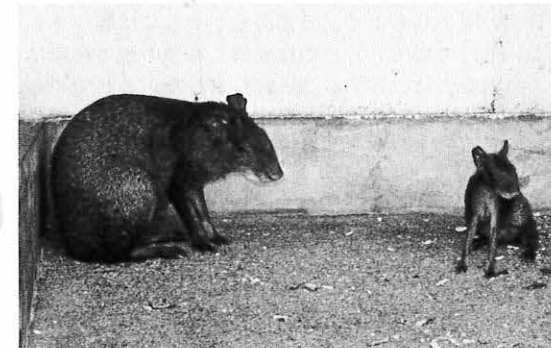
③ アカハシリュウキュウガモ 昭和55年 7月29日繁殖（申請中）



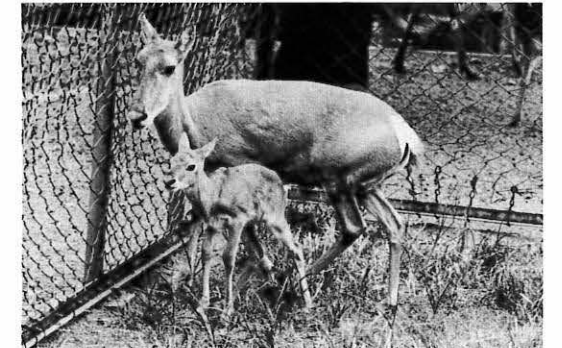
④ ボリビアリスザル 昭和51年 9月 8日繁殖

繁殖賞受賞動物一覧

動物名	繁殖年月日	動物名	繁殖年月日
ベイサオリックス	S. 30. 4. 8	コサンケイ（人工）	S. 51. 4. 25
セイラン（人工）	35. 6. 11	ミナミアメリカオットセイ	51. 5. 10
ヨーロッパコウノトリ	39. 5. 10	ボリビアリスザル	51. 9. 8
チャバラホウカンチョウ（人工）	39. 7. 1	イエローアナコンダ	52. 4. 9
アグーチ	40. 5. 16	モウコガゼル	52. 8. 2
ハリネズミ	41. 3. 18	ジャングルキャット	53. 4. 19
スプリングボック	42. 6. 24	インドガン	53. 7. 3
キンクロハジロ	45. 7. 14	アメリカバク（人工）	45. 11. 17
（人工）	〃	ベニジュケイ（人工）	54. 6. 16
アオサギ	47. 3. 27	クリイロミズヘビ	53. 12. 4
ウミネコ	47. 6. 3	バ	55. 7. 25
スジオナメラ	50. 8. 2	アカハシリュウキュウガモ（人工）	55. 7. 29



⑤ アグーチ 昭和40年 5月16日繁殖



⑥ モウコガゼル 昭和52年 8月 2日繁殖

4・5月の動物園日記

- 4 / 16. ベニジュケイが産卵しました。
- 4 / 19. 保護されたムササビの子が順序に育っています。現在の体重は、98g です。
- 4 / 20. ワライカワセミの性別を判定するため、採血を行いました。
- 4 / 21. 3月5日、瀕死の状態で生まれたフタコブラクダのモモコが、体重70kgにもなり元気に育っています。
- 4 / 22. コウノトリの交尾が確認されました。
- 4 / 23. タンチョウが第1卵目を生みました。
- 4 / 26. 春の動物園まつりが本日より開幕しました。

- タンチョウが第2卵目を生みました。フタコブラクダの子が離乳期に入ったのか乾草を少し食べました。
- 4 / 27. クウェート動物園の園長と副園長が当園に見学に来られました。
- 4 / 28. 昨年6月生まれのカリフォルニアアシカ2頭の性別を鑑別しました。雄と雌でした。
- 4 / 29. ニホンザルの子が1頭生まれました。
- 4 / 30. キョンの子が生まれました。
- 5 / 1. 本日より、マレーバクとクロサイを、夜間も放飼することになりました。
- 5 / 2. ゾウのヒロ子が、屋外音楽堂でのロック演奏のため、やや興奮ぎみでした。

- チュウシャクキジが1羽保護されました。
- 5 / 3. ヤマカガシが1頭保護されましたが、元気だったので即日自然復帰させることにしました。
- 5 / 4. スーティーマンガベイの雌が隣のオリにいるマントヒヒの雄に右手を噛まれたので、すぐに治療し、入院させました。
- 5 / 5. 雄コンドルの元気、食欲がなくなったので、すぐに治療を開始しました。象の体重が計測されました。春子は4.5t、博子は2.33tでした。
- 5 / 6. コンドルの雄がえさを食べないので、強制的に食べさせました。

- 5 / 7. 先日保護されたクロウミツバメがえさを食べようとしないので、強制的に食べさせています。
- 5 / 8. ブラッザモンキー 2頭雄雌が入園、検疫を開始しました。
- 5 / 10. 雄のコンドルが、やっと元気を回復しました。
- 5 / 18. アネハヅルの雌が死亡しました。
- 5 / 20. ニホンジカの子が1頭生まれました。しかし母親は死亡してしまったので、人工哺育することになりました。

フタコブラクダの人工哺育記録

〈はじめに〉

フタコブラクダの人工哺育は、当園では過去2例あり、他園でも数例報告されており、別段取り立てて珍らしいという訳ではありませんが、ここに今年の3月5日に生まれたメスの人工哺育に至る経過と成長記録を飼育日誌を追って記したいと思います。

〈人工哺育に至る経過と成長記録〉



3月5日、午前7時45分頃、フタコブラクダの子が生まれているのを発見しました。

母親はミルといい、昭和52年3月30日に当園で繁殖した個体でこの出産が初産でした。この個体は普段でも

落ち着きがなく、かねてから出産時の育児をうまくできるかどうか疑い深い問題のあるメスでした。

さて、発見された時仔は数日來の降雨によって出来た水溜りに、横倒しの格好で泥まみれの状態でした。おりからの寒さのため呼吸は弱く、グッタリと



した状態で、抱き上げてもほとんど反応がなく、かすかに後肢を動かす程度で、かなり衰弱した状態でした。

さっそく同僚の協力を仰ぎ、体温を上げるべく暖房設備のある一時収容舎に収容し、心臓のあたりをマッサージしたり、敷き藁を敷いたりし、なるべくスチームに近い場所に寝かせました。約10分を経過した頃から次第に鼻孔が開閉し、呼吸も強くなりました。午前8時30分頃には動物病院の獣医師も出勤してきましたので、みんなで協力し、とにかくお湯で全身の泥を落とし、ヘアードライヤーを使って体を乾かしながら全身を乾いた布でマッサージしました。

仔は徐々に体力を持ち直し哺乳を試みましたが、

自力で吸うには至らず、とりえず午前9時30分に市販牛乳に卵黄を混ぜたミルクを200ccカテーテルで強制的に飲ませました。次いで午後1時30分にも350ccを与えました。この時は時間がかかりながらも、少量づつ間隔をおきながら強制的に哺乳すると、体力を少し回復したのか、わずかですが自力で飲みました。しかし、まだ自力で起立するには至らず、結局この日は1040ccを半ば強制的に哺乳した形でした。

翌6日には、自力で起立する意志がみられましたが、直ぐに倒れ込んでしまう様な有り様で、観察しているとどうも前肢が虚弱のように思えました。しかしながら、午後6時過ぎには、起立させてやると、約20分間もなんとか起立してられるようになり、起立させて哺乳することにしましたが、坐る時には自分で坐ることができず、人間の手で坐らせてやらねばならない、やっかいな有り様でした。その後、哺乳に手間どりながらも、わずかづつではありますが哺乳量の上昇がみられました。乳首は仔牛用の乳首を使用し、これをウイスキーの空ビンに取り付け使用したのですが、自力で吸乳するのは約300cc程度で、残りは無理に強制的に哺乳するといった具合で、1日約3000cc与えるのですが哺乳に時間がかかり、哺育は困難をきわめました。

それでも、9日には歩行する意志がみられ、そしてこの頃には自力で坐る意志もみられました。11日には、自ら起立し収容舎内を歩き回る仕草もみられましたので、小鳥舎裏の空地に簡易運動場(3×4m)を作って収容することにしました。この場所は日中の陽当たりもよく、日光浴をさせるには願ってもない絶好の場所で、日中は放飼し寒気の残る夜間は一時収容舎に収容することにしました。これでやっ



と順調に成育してくれると思ったのですが、そうはいかず16日の朝やや軟便だった便が昼過ぎには下痢便となり、次いで水様便となってダウンしてしまっただけです。9日から牛の生乳と初乳が手に入ったのでそれを与え、

12日からは、初乳に市販の牛乳を除々に混合してゆき、15日からは、初乳70%、市販乳30%の割合で与え、16日には初乳が少なくなってきたため、市販乳の割合を40%に引きあげた矢先の下痢便でした。とりえず市販牛乳の割合を30%に引き下げ、ビオフ

エルミンを投与して様子を見ることにしましたが、依然回復はみられず、衰弱する一方でした。もちろん強制哺乳で、17日からはエスピラック50%、市販乳50%の混合乳を与えることにしました。乳脂肪分は4%と計算し、これにビオフェルミンを投与する方法に切りかえたわけです。こうした方法が続けていくうち、25日頃から便の状態も良くなり、わずかながらも体力の回復がみられるようになりました。体力の回復とともに、この頃からは時折牧草を口に入れる仕草がみられだしましたので、牧草の柔らか



いところを多目に放飼場にばらまき、自然に牧草になじむよう工夫しましたが、食べる程のものでなく牧草で遊ぶという程度でした。そして、4月2日には小鳥舎裏の放飼場が手狭間になったので、ラクダ舎に収容することにしましたが、親達と一緒に放飼出来ないため、ラクダ舎倉庫を改造し、ここに収容することにしました。この頃には体重も54kgとなり、コブの高さも6cmぐらいいなり、運動をさせても、左右の後肢で蹴り上げるといった仕草がみられました。その後順調に牧草も食べ始め、4月20日頃から

は、パン屑の小さいものや、フスマ等も口にできるようになり、5月1日には、キャベツの柔らかいところも食べ始めているのが確認されましたが、ペレットやニンジン等の固形物には目を向けませんでした。5月10日過ぎには、リング等も少々ではありますが、食べているのを確認しましたが、主体はやはり牧草で、かなりな量も食べるようになりになりました。さらに鉾塩等もよくなめており、離乳は順調と思われます。現在では、コブも約15cmの高さになり、コブの周りも大分厚みを増してきました。体重は当初、1週間



から10日おきぐらいに計量していたのですが、体が大きくなるにつれ、現在の体重計では小さくまた、計量台が動くのを嫌がり出したため、5月10日の計量を最後に、体重の測定は断念せざるをえないことになりました。

生まれた時は仮死状態だった仔が、何回かの危機を乗り越え、元気に成長した姿を見ていますと、生命のすばらしさを感じざるをえません。いろいろ苦労はしたもののほんとうによかったと思います。

(飼育課：葭谷文彦)

表1 〈哺乳量グラフ〉

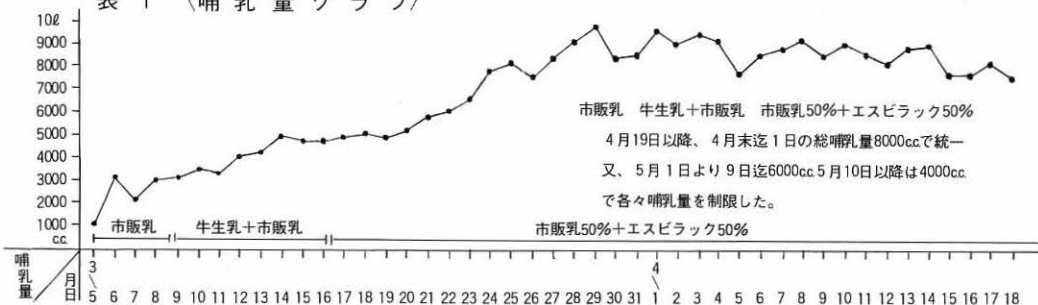


表2 〈体重増加グラフ〉

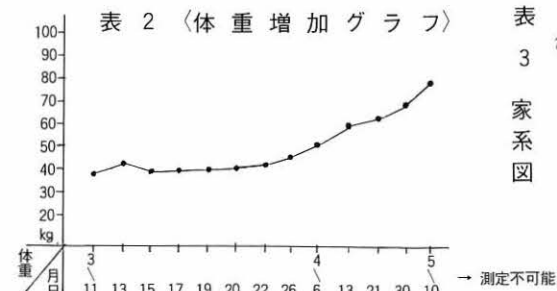
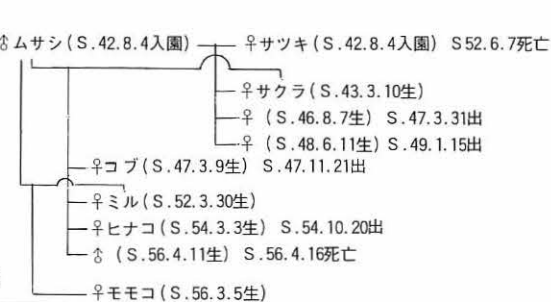


表3 家系図



北米通信員だより ⑤

§ セント・ルイス動物園

大学の休みを利用してバスで半日かけてセントルイスへやって来たのは、大阪府大大学院での同級生の竹村さんや先輩の中村氏（共に同市にあるワシントン大学勤務）それに当時州下のミズーリ大学に御滞在中だった清水助教御夫妻とお会いするのが目的でしたが、その機会に共に近所の有名な動物園を訪れることにしました。まず事務所に副園長のウイリー氏を訪ねました。お会いしたところ御自分は多忙で手が離せないからと教育課長のホーデル氏に案内を依頼して下さいました。氏は電気自動車に私達を乗せて広い園内をまわっていろいろと説明して下さいました。動物舎は内・外共に凝ったつくりのものが多く、コレクションもことに偶蹄類、鳥類、爬虫類、猿類と玄人好みの動物が数多く見られました。



鳥類館内部

馬に造詣の深い清水先生は、今は珍しくなったミズーリら馬に関心を示しておられました。爬虫類館では責任者のラツルノ氏が「裏」もくまなく見せて下さいました。私はここで、何十種類となく飼われている毒蛇のそれぞれについての抗血清が、万一の場合に備えて専用冷蔵庫内にびっしりと並べられて保管されているのを見て驚きました。そもそも同園の動物舎はどこも入園者からの動物観察が最も効果的に行なわれるよう設計されたもので、最新の爬虫類館の内部はことにすばらしいものですが、管理施設もまた立派でした。

猿類館の地下は教育課の本部になっていて、広い教室があり、骨格標本や剥製などが多く見られました。この動物園には動物学や自然史を扱った、たと

えば、「鳥類の基礎」、「動物の毛皮」、「ミズーリ州の野生動物」といった計20余りの教育プログラムがあり、各種学校等申し込みをしてきた団体に対して、30分ないしは1時間の講習が、教育課の職員を中心として無料で行なわれているとのことでした。未就学の児童から大学生、それに一般社会人に対しても



大型ネコ科動物セクションにて

プログラムが用意されているとのことで、教室で行なうもの（スライド、映画を含む）、各動物舎で行なうもの、それに園内の一隅にある子供動物園で行なうものなどさまざまです。大きな倉庫にはテキスト、スライド、映画フィルムのような教材もずらりと整理されて並んでおり、同園の底力を見る思いでした。こういった努力があつてこそ立派な教育事業が可能なることをいまさらながら思い知りました。

さて子供動物園は野外の部分が大工事中で入れず、翌日に再びやってきて室内の部分で主に州内の生きた動物や、かつて飼われていた珍獣の剥製を見ました。ニホンウズラの孵化の様子を実物で見せるコーナー、生きたモグラが巣穴を使う様子をガラス箱の側面から見せるコーナー、モルモットを自由にさわることのできるコーナーなどもあり、雨天の場合の配慮もよくなされておりました。ここには教育事業の手伝いをするといったボランティアの存在は見られませんが、職員数名によりサマースクールさえも立派に行なわれているようで、同園の教育課の意欲的な仕事ぶりをうかがい知ることができました。木々の色づいたフォーレストパークの動物園は大都市の真中とはとても思えない申し分のない環境の中にある大きな動物園でした。

§ 再びオクラホマ・シティー動物園へ

やっとボランティアズを発見!

再びオクラホマ・シティー動物園に早朝から出かけました。同園研究委員会による「学部生の研究勧誘のための集い」があり、主催者である私の指導教授のコーストベツト先生に誘っていただいたのです。行ってみると専用の会場には百人もの人が集まっていた。その中にはタルサ動物園次長の川田健氏もおられました。まず教授と園長からの説明が別々



動物園正門前で。

左からマイケル君、川田健氏、コーストベツト教授、私

にあり過去の例が報告されました。次いではるばるとシアトル動物園からかけつけた職員でかつて大きな成果をあげた人がシアトルでの研究活動の概略についてスライドを使って講演しました。その後、別の大学教授3人による「学部生の研究プログラムをすすめる上での問題点は何か」と題する率直な討論がありました。その後多くの人が求められてコメントを述べました。川田氏が「タルサでもハチドリから毎日採血するようなものでない限り歓迎する」と表明されると大爆笑がおこりました。その後はその場で園のサービスの昼食会があり、同園の当日限りの無料優待券が配られました。

昼からは川田氏がクラレノア大学での教え子、マイケル君を連れて園内をまわるとおっしゃるので加えてもらうことにして、3時に教育課長と会う予約をして外に出ました。この日は曇りでしたがとても暖か動物達もことのほか元気でした。前回見られなかったアードウルフやオカピ、それにマウンテンゴ

リラといった未知の動物も見ることができました。川田氏のおかげで裏も自由自在に出入りできました。この動物園はスケールが大きくはかり知れないところが魅力です。今後まだまだ立派になるでしょう。



ガウルの飼育頭数では全米一

3時に教育棟で教育課長のブトレッジ氏のお話を1対1で伺いました。まず同園の教育事業には年齢別の10余りのプログラムが年間を通じてあるがそれらの実施にはボランティアの協力によるところが大きいとのことでした。ボランティア組織は2つあり14~17才のジュニア・キューレーター（飼育係の助手）が50人、18才以上のドーセント（教育ボランティア）が60人で共に活発な活動を展開しているそうです。共に計6回の講習の後、資格が与えられるそうです。天王寺のボランティアとよく似たドーセントの役割は、園内ガイドと接触コーナー（室内）の補助及び移動動物園の実施等で、中年以上の人が多いので全く任せてある部分も多いようでした。園内ガイドでは市の近辺の小中学校との協力により学校ごとに連れてきた5年生を指導するのだそうです。サマースクールもあり、4日ずつ年齢別の3クラスがそれぞれ6回行なわれるとのことでした。そういう話を1時間半もして、いただいた370ページものテキストを持って部屋を辞するとホールにはジュニアキューレーター達が集まっていました。この日だけで32人が各部所で働いていたと聞きあ然としました。

(つづく)

(大阪動物園ボランティアズ:

富樫史朗)

大...
イ...
の竹...
ト...
滞...
的...
訪...
リ...
忙...
内...
を...
さ...
の...
虫類、

馬...
ー...
は責...
さい...
いる...
合...
管...
動物...
に行...
館...
設...
猿...
教室...
た...

第7回サマースクール開講のお知らせ

大阪市天王寺動物園と大阪市立自然史博物館との共催で、夏休み中の子供たちのために、7月23日からサマースクールを開きます。

動物園で動物の観察や飼育の勉強をしたり、博物館で動物の体のしくみを調べたりするこのサマースクールは、今年で7回目を迎えます。サマースクールの実施内容と募集要領は下記のとおりです。

- 日時 7月23日(木)～8月2日(日)
午前9時30分～午後3時
(第3日目のみ12時まで)
3組に分けて受講
第1組 7月23日～7月25日
第2組 7月27日～7月29日
第3組 7月31日～8月2日
- 会場 第1・2日目 大阪市天王寺動物園
第3日目 大阪市立自然史博物館
- 参加資格 小学校4・5・6年生
ただし保護者の同意があって居住地から会場まで3日間通えるもの。
- 参加経費 1人 500円(資料、記念写真代)
- 持参品 弁当と水筒(第1・2日目のみ)
筆記用具
- 定員 各組90名、計 270名
応募者多数の場合は抽選します。
- 申し込み方法
6月30日までに必着するよう往復ハガキで動物園まで申しこんでください。なお往復ハガキに
(1)サマースクール第〇組に参加希望
(2)住所(電話番号)
(3)氏名、学校名、学年
(4)保護者氏名

を記入し、返信用ハガキにも住所、氏名を必ず記入してください。

- 参加者の決定
〆切後、抽選の上、返信用ハガキで通知します。
- 内容 動物園：動物の観察や飼育係の仕事を見学し、動物に関する話を聞く。
自然史博物館：動物の頭や体のしくみを調べたりスケッチする。
- その他 (1)実習当日の詳細については参加決定者に連絡します。
(2)保護者の参加は認めません。送迎のみにしてください。

11. 申し込み連絡先
〒 543 大阪市天王寺区茶臼山町
6-74
大阪市天王寺動物園
TEL. 771-8401

ボランティア募集中!

毎年夏休みに、小学生高学年を対象としたサマースクールを開催していますが、今年も上記の通り開催を計画しています。そこでこのサマースクールをお手伝いしていただけるボランティアを募集し、少しでも多くの子供たちに動物とのふれあいを通じて情操教育の機会を与えてあげたいと考えています。

ボランティアとしての資格は特に必要なく、動物や自然を愛する気持の強い大学生又は短大生、及び一般の方で、サマースクール期間中、奉仕していただける方の応募をお待ちしております。

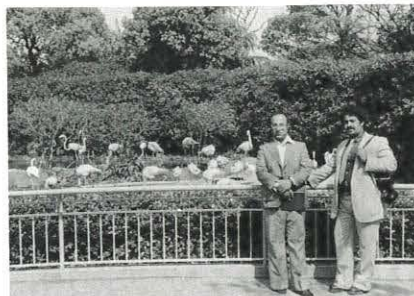
応募の受付は天王寺動物園(TEL 771-8401)で行っております。ボランティアの研修日程の都合上、6月30日で締切らせていただきます。

動物園ニュース

§クウェート動物園長来園。

4月27日、クウェート動物園の園長イブラハム・アルドハイム氏と副園長のアリ・ムハメット氏が来園されました。クウェートは小さい国なので動物の収集に苦労するとのことでしたが、当園の橋本園長と長瀬獣

医の案内で園内を5時間にわたって熱心に見学されました。新しい動物



園を作るための参考にするため来園されたわけですが、長時間にわたるバイタリティーにあふれた見学態度に敬服するばかりでした。

§ゾウの体重測定。

春の動物園祭りの期間中の5月5日に毎年恒例の「ゾウの体重を当てましょう」という催しが行なわれました。午後2時からの体重測定には、大阪市の近藤助役をはじめとする関係者やめぐみ幼稚園児など、多数の人々が出席して行なわれました。その結果

§出産ラッシュ続く。

4月29日に今年初めてニホンザルが生まれました。5月に入って12日に2頭目が生まれました。毎年4～5頭の子ザルが生まれていますが、今年の出産は少し早いようです。

また4月30日にキョンが1頭生まれました。母親は6産目で、これで当園のキョンは5頭になりました。

ニホンジカの出産も5月20日から始まりました。残念ながら母親がすぐに死亡してしまったため、子ジカはヤギのミルクで育てています。

鳥類では5月号でお知らせしましたコブハクチョウのヒナが、5月22日に3羽ふ化しました。両親は昨年8月に来園したばかりの夫婦です。今年の出産は無理ではないかと思われていただけに、5卵中3羽がふ化しただけですがまずまずの結果といえ



るでしょう。ヒナをつれたコブハクチョウの姿はとてもかわいいもので

くらしを彩るショッピング

近鉄百貨店
アベノ店(06)624-1111・上本町店(06)779-1231
東京近鉄(0422)21-3331

・近鉄百貨店グループ
大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

大:
イス:
の竹:
トン:
滞在:
的で
訪れ:
リー:
忙で:
内を:
を乗:
さい:
のが:
虫類:

馬に:
ーリ:
は責:
さい:
いる:
合に:
管さ:
動物:
に行:
館の:
設も:
猿類:
教室:
た。こ

第7回サマースクール開講のお知らせ

大阪市天王寺動物園と大阪市立自然史博物館との共催で、夏休み中の子供たちのために、7月23日からサマースクールを開きます。

動物園で動物の観察や飼育の勉強をしたり、博物館で動物の体のしくみを調べたりするこのサマースクールは、今年で7回目を迎えます。サマースクールの実施内容と募集要領は下記のとおりです。

- 1. 日時 7月23日(木)～8月2日(日)
午前9時30分～午後3時
(第3日目のみ12時まで)
3組に分けて受講
第1組 7月23日～7月25日
第2組 7月27日～7月29日
第3組 7月31日～8月2日
- 2. 会場 第1・2日目 大阪市天王寺動物園
第3日目 大阪市立自然史博物館

を記入し、返信用ハガキにも住所、氏名を必ず記入してください。

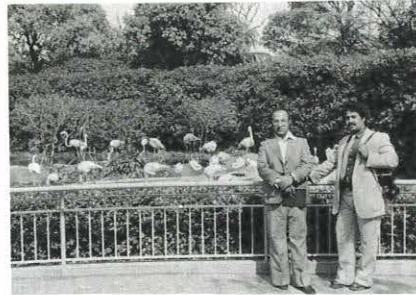
- 8. 参加者の決定
メ切後、抽選の上、返信用ハガキで通知します。
- 9. 内容 動物園：動物の観察や飼育係の仕事を見学し、動物に関する話を聞く。
自然史博物館：動物の頭や体のしくみを調べたりスケッチする。
- 10. その他 (1)実習当日の詳細については参加決定者に連絡します。
(2)保護者の参加は認めません。送迎のみにしてください。

11. 申し込み連絡先
〒543 大阪市天王寺区茶臼山町

動物園ニュース

§クウェート動物園長来園。

4月27日、クウェート動物園の園長イブラハム・アルドハイム氏と副園長のアリ・ムハメット氏が来園されました。クウェートは小さい国なので動物の収集に苦労するとのことでしたが、当園の橋本園長と長瀬獣医の案内で園内を5時間にわたって熱心に見学されました。新しい動物園を作るための参考にするため来園されたわけですが、長時間にわたるバイタリティーにあふれた見学態度に敬服するばかりでした。



§ゾウの体重測定。

春の動物園祭りの期間中の5月5日に毎年恒例の「ゾウの体重を当てましょう」という催しが行なわれました。午後2時からの体重測定には、大阪市の近藤助役をはじめとする関係者やめぐみ幼稚園児など、多数の人々が出席して行なわれました。その結果来園31年目の「春子」が4500kg、万国博の年に来園した「ラニーひろ子」が2330kgでした。「ひろ子」の体重は昨年より40kg増加しました。正解に最も近かった阿倍野区の西尾幸女さんをはじめとする20名の方々に商品が贈られました。

§タンチョウ6年連続産卵。

タンチョウが、4月23日に1卵目を、続く26日に2卵目を産卵しました。オスは昭和24年来園したもので、もう30才を越えています。メスは昭和49年に中国の北京動物園から来園したものです。昭和51年以来5年連続繁殖に成功しているタンチョウ夫婦です。今年も無事ふ化することでしょう。この「なきごえ」が皆さんのお手元へ届く頃には、かわいいヒナをつれたタンチョウ夫婦を御覧いただけることでしょう。



§出産ラッシュ続く。

4月29日に今年初めてニホンザルが生まれました。5月に入って12日に2頭目が生まれました。毎年4～5頭の子ザルが生まれていますが、今年の出産は少し早いようです。

また4月30日にキョンが1頭生まれました。母親は6産目で、これで当園のキョンは5頭になりました。ニホンジカの出産も5月20日から始まりました。残念ながら母親がすぐに死亡してしまったため、子ジカはヤギのミルクで育てられています。

鳥類では5月号でお知らせしましたコブハクチョウのヒナが、5月22日に3羽ふ化しました。両親は昨年8月に来園したばかりの夫婦です。今年も繁殖は無理ではないかと思われていただけに、5卵中3羽がふ化しただけですがまずまずの結果といえるでしょう。



また一昨年に初めて繁殖に成功したショウジョウトキが5月4日から11日にかけて4卵を産卵し抱卵中です。昨年は繁殖に失敗しているだけに今年はぜひ成功してほしいものです。

ふ卵器に入れたキジ類の卵も5月初めから続々とふ化しています。昨年4羽、一昨年2羽の繁殖に成功したベニジュケイも5月19日に1羽がふ化し順調に成育しています。

§「大阪の鳥」展開催。

愛鳥週間にちなむ恒例の野鳥展として今年も「大阪の鳥」と題して行なわれました。当園と大阪府の主催、日本野鳥の会大阪支部と天王寺動物園協会の協賛で行なわれました。

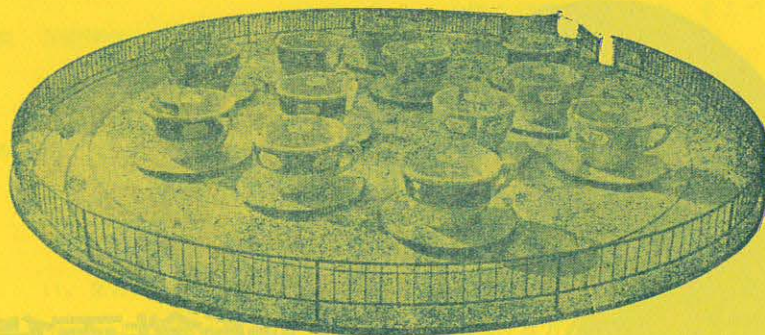
休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。9月までの休園日は下記の通りです。

6月15日(月)、7月20日(月)、8月17日(月)、9月21日(月)。

開園時間は9時半～5時で、4時に切符売止めになります。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹 娛樂 株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和56年6月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

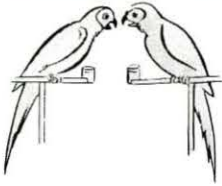
第17巻 第6号(通巻189号)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06)771-0201

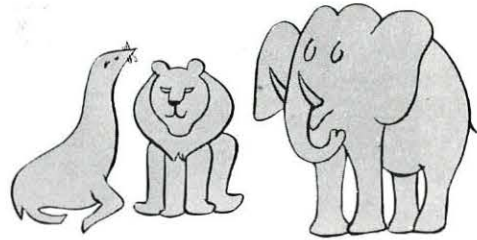
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

橋本 一郎・土井 良彦・樽本 勲・中川 哲男・宮下 実・長瀬健二郎・柳原 安昭・森本 泰利・大野 尊は
 阪谷 文彦・森本 武志・野口 秀高・仲谷 登・高橋 真三・板野 健一・石島 宏胤・柴田 経